

令和7年度 第3回学校運営協議会

実施日	2月6日 金曜日	15:00 ~ 16:30 (場所:大講義室)	
記載者	金丸 春樹	司会	市川三郷町統括 一瀬 浩 様
欠席者	青木 志保 様		

次第

(1) 開式の言葉

(2) 学校長あいさつ

青洲学の発表にもご参加くださりありがとうございます。今年度からコミュニティスクールになり、様々なご意見がいただけることに感謝している。学校だけでは対応できない難しい問題もある。お力を貸していただきたい。本日の説明、内容をお聞きいただき、ご助言をよろしくお願ひしたい。

- ・学校評議員会から学校運営協議会へ移行し、「地域とともにある学校づくり」を推進
- ・教育活動の透明性向上、学校方針の承認、地域連携の強化を重視
- ・進路状況・学校評価・いじめ対策の重要性を共有
- ・教職員へ「授業重視」「全日制の価値(行事・部活動)」を強調

(3) 学校概況の説明

※中学生第2次進路希望調査結果

中学3年生の人数は過去最少だが、通信制希望は過去最多となっている。高校授業料無償化の影響が今後も出てくるのではないか。おかげさまで、今年度は、本校を希望してくれる生徒が多い。来てくれた生徒を大切に向き合っていきたい。工業科は全体的に希望者が少なくなっている。

- ・県全体で中学3年生は過去最少
- ・通信制高校希望者は過去最多
- ・青洲高校:普通科 1.22 倍、商業科 1.07 倍、工業科は低倍率

※前期募集の実施状況

普通科は19名に内定を出せなかった。工業科は1名内定を出さなかった。商業科は8名に内定が出せなかった。条件Bでは部活動に熱心な生徒を含め内定が出ている。

- ・普通科:60名志願 → 41名内定
- ・工業科:18名志願 → 17名内定
- ・商業科:36名志願 → 28名内定
- ・後期募集に向け、中学校との連携を継続

※3年次生の進路決定状況について

昨年度の同時期と比較して、進学希望者の増加がみられる。就職者は若干の減少。未定者の減少も特筆すべきこと。昨年より進路決定が早い。本校は進学が増える傾向がある。就職では県外希望が増えてきた。本校の探究的な学びが総合型選抜での進路決定に好影響を与えている。

※学校評価の結果について

全体を通して評価が上がっていると言える。一部若干下がっているものがあるが、もともと高評価であったものであり、大きな変化ではない。生徒たちの自己評価が少し低い。普通科は授業の進度が早いと感じる生徒が多い。自己評価は普通科が一番低い。工業科は自己評価が高い。商業科も多くの項目で評価が上がっている。

働き方改革は少しずつ進んでいるが、部活動に熱心な先生においては長時間勤務が目立つ。保護者からの評価は「わからない」という回答が目立つ。子供との話のきっかけとしてアンケートを活用してほしい。

記述回答の中には厳しいものを含め、様々な意見があったが、回答できるものには回答をした。

個人端末での撮影が禁止されたので、行事での即応的な写真のアップロードはできなくなる。

- ・授業アンケートは全体的に向上
- ・工業科は自己評価が高い傾向
- ・保護者アンケートは「わからない」が多く改善が課題
- ・働き方改革は徐々に改善

※拡大いじめ対策委員会

いじめの実態調査では、1件のみ上がってきた。関係は良好なものに戻っているので、重大事態に相当するものではない。いじめまではいかないが、SNSでのトラブル等もあり、カウンセリング等も活用されている。

- ・今年度の報告は1件で重大事態なし
- ・悩みを抱える生徒が増え、SC活用が増加
- ・SNSトラブル対策の強化が必要

(4) 各学校運営協議委員からの助言・提言

- ・(昨今の)学校運営は難しいと感じている。子供たちはますます厳しい社会に出ていかなければならない。コミュニケーション力が求められる。この地域はまだ協力的。頑張してほしい。
- ・子供たちは我々が思うほど、学校生活に不満を抱えていないのかも。一般企業ではお金を稼ぐ手段として勤めているが、先生方は、子供たちのために頑張ってください。その先生方が、病まず勤められる環境を整えていただきたい。
- ・福祉業界への進学、就職が少ない。コロナ等で閉鎖的になってしまったことが一因。施設でも後期高齢者も増え、老々介護的な様相を呈している。もっと開かれた業界にしていかななくてはと思う。

- ・三郷の秋祭りへの協力を感謝する。リスク管理の研修を職場でもしているが、生徒は個人情報の漏洩を安易に考え、動画等をアップロードしてしまう。生徒への教育が必要ではないか。何か起きた時に、相談しやすい環境を整えていただきたい。学校側が情報を得る手段を用意してほしい。
- ・叱られる怒られることが少なくなっているのが、社会に出た時にコミュニケーションが取れない。悪いことをしたら怒られるのが当たり前だと学んでほしい。先生も優しいだけではだめ。難しいが怒る叱るではなく、対話でお願いしたい。
- ・探究活動の発表で生徒たちの能力に驚いた。人の前に立って発表するというのは大変なこと。できていない生徒も若干いたが、社会に出た時に必要な能力でもあるので、身につけさせてほしい。地域の課題を真剣に考えている様子はありがたい。弓削神社のみこしの担ぎ手の協力もありがとうございました。
- ・地元で高校があって刺激がある。前期も後期も多くの生徒がお世話になっている。地元の生徒が地元の高校に入って盛り上げてもらいたいという気持ちが高い。学校見学させていただいたり、音楽部等の交流でも刺激をいただいたりしている。SNSでのトラブルについては使用時間が長いことが原因の一つ。SNSをしながらの学習は定着しない。1日2時間使い続けると一年で1か月を捨てたことになる。危機感を覚える。中高で連携して、危険性を訴えられたらいいと考える。中学校と高校での部活指導では中心となること、目的が異なる。勝つこと一辺倒ではなく人間的成長を主眼に置くことが本来の姿ではないか。
- ・部活動の地域展開の試行として、スポ少がある日には学校の部活を休みにして、地域に任せている。土日も地域に任せている。部活だからやっていたけれどスポ少ではやらないという生徒も出てくるのかも。高校の部活動はどうなっていくのか気になるところではある。中学校の変化が、どんなふうに高校に影響を及ぼすのか見ていきたい。
- ・大学生との勉強会をしているが、プレゼンが非常にうまい。高校時代に探究活動、発表をしてきたことが、生きている。コミュニケーション能力は大人には絶対に必要な力。今日の発表も拝見して嬉しくなった。日ごろ町の協力依頼を受けていただき感謝している。町としても学校に協力できることは協力していきたい。
- ・教員メンタルケアへの懸念、県教委の対応指針を活用
- ・SNS リスクへの専門研修、相談体制整備の提案
- ・探究活動や地域協力を高評価
- ・中高連携強化、部活動地域移行への懸念が共有

(5) 終わりの言葉

その他

- ・次年度も年 3 回開催予定
- ・委員を 1 名追加予定
- ・行事参加・意見提出も評価対象とする方針